

1 2. 福祉教育・ボランティア活動

ボランティア活動に関する啓発、各種研修、学習会への参加、ボランティア団体の紹介や加入の促進を行うとともに、共同募金配分金事業から助成してボランティア団体や福祉教育校の活動支援を行った。

(1) 福祉教育、ボランティア活動、地域福祉の推進事業の実施

中土佐町内小学校（3校）、中学校（3校）と連携し、福祉活動に取り組むことで、児童、生徒に福祉の心が育つことを期待し、地域とのつながりを重視したボランティア活動を推進した。

- ① 学校訪問活動（随時）
- ② 広報誌（中土佐町社協だより）に行事紹介
- ③ 学校行事への参加・協力
- ④ 助成金の交付

(2) ボランティアセンター機能の推進

ボランティア関係情報の収集、提供を始め、ボランティアの需給調整、研修の場の確保等を行い、新たな分野へのボランティア活動の開拓と支援を行った。

- ① 相談、登録、あっせん活動
- ② ボランティア保険の加入手続き
- ③ 広報、啓発活動
- ④ ボランティアグループの活動支援

(3) 災害ボランティアセンター運営体制の強化

南海トラフ地震等の大規模災害発生後、迅速に地域住民の生活復旧・復興に着手できるよう災害ボランティアセンターの設置・運営体制の強化を行った。

- ・災害ボランティアセンター連絡会の開催（年2回）
- ・災害ボランティアセンター運営模擬訓練の実施
（大野見、久礼、上ノ加江・矢井賀地区）

1 3. 共同募金及び歳末たすけあい事業・24時間TV募金活動

(1) 赤い羽根共同募金配分金事業

民生委員児童委員や福祉活動推進校の生徒の協力を得て、募金活動の啓発として、10月6日に街頭募金を実施した。個別募金については、地区委員の協力により、多くの住民の方から共同募金にご寄付をいただくことができた。

共同募金目標額 1,460,000円 （達成率97.7%）

戸別募金他	街頭募金	法人募金	合 計
1,214,146円	42,779円	170,000円	1,426,925円
(1,227,378円)	(36,532円)	(165,000円)	(1,428,910円)

*（ ）内は前年度実績

(2) 共同募金配分事業

① 老人福祉

(ア) 中土佐町老人クラブ連合会の育成及び健康増進の推進に、高幡地区老人クラブ連合会主催の「芸能大会及び体育大会」へ参加する支援を行った。

10月21日 第41回高幡地区老人体育大会 81人参加 （62人）

11月10日 第25回高幡地区芸能大会 80人参加 （86人）

- (イ) 65歳以上の独居高齢者世帯を対象に「ふれあい旅行」を実施し、孤独感の解消と参加者相互の交流を深めることができた。

行き先：徳島県三好市大歩危峡

中土佐地区	大野見地区	合 計
30人(19人)	17人(8人)	47名(27人)

* () 内は前年度実績

② 児童・青少年福祉

子どもボランティアの活動、3つの保育園の連携活動への助成支援を行うことにより、募金や清掃活動等のボランティア活動の促進に効果があった。

③ 社会福祉活動推進校育成事業

中学校3校、小学校3校の児童、生徒を対象として社会福祉への理解と関心を高め、社会奉仕、社会連帯の精神を養うため助成した。

各学校の特徴的な事業は、次のとおりである。

久 礼 小 学 校	朝のさわやか声かけ運動 ふるさと海岸の清掃活動 双名園、デイサービスでの高齢者との交流(3年) ストックヤードの利用者の方との交流(4年) 高齢者へのハートフルメール(敬老ハガキ)作成・発送 地域との交流(運動会・学習発表会への招待)
上ノ加江小学校	学校便り・児童新聞による啓発活動(毎月2回発行) 河川敷の清掃活動 敬老のハガキ、年賀状(高齢者)の作成・発送 地域との交流(地域の方による児童への読み聞かせ活動) 上ノ加江地区敬老行事への参加
大 野 見 小 学 校	地域新聞発行(毎月) あいさつ運動 全学年「大野見荘」訪問〈七夕交流会〉 学習発表会 地域との交流(地域の方による児童への読み聞かせ活動) ふれあい収穫祭、クリスマス集会 地区児童会アルミ缶回収
久 礼 中 学 校	朝のあいさつ運動 ふるさと海岸クリーンアップ作戦への参加 地域との交流(体育祭、文化発表会への招待(高齢者)) 地域の方とふれあい学習会の実施(1年) 赤い羽根共同募金街頭募金への参加(生徒会) 中土佐町の夢づくり学習(3年)
上ノ加江中学校	あいさつ運動 花いっぱい運動(年間) 海岸清掃活動 地域との交流(小中合同運動会、文化祭への招待) 敬老会への参加(全学年) 地区民運動会への参加 暑中ハガキ(高齢者)、年賀状(独居高齢者)の作成・発送
	毎朝のあいさつ運動(生徒会) 地域清掃活動への参加による交流活動 「ほのぼの大野見」での高齢者交流活動

大野見中学校	地域との交流（運動会、文化発表会への招待） 保育園児、小学生への本読み聞かせ交流活動 認知症サポーター講習会（3年） 介護体験（大野見荘）学習（2年）
--------	--

（3）歳末たすけあい募金配分金事業

歳末たすけあい募金活動を地区委員の協力により行い、募金をいただくことができ、民生委員児童委員の協力により支援を行った。

募金実績額 219,351円（前年度実績：238,801円）

（支援の内容）

・要介護者世帯（96世帯（前年度実績：119世帯））に介護用品（紙オムツ）の支給

（4）24時間TV募金活動

8月28日（日）にマルナカ久礼店で、ボランティアなどの協力により24時間テレビ募金活動を実施した。

募金実績額 160,263円（前年度実績：187,555円）

14. 生活福祉資金貸付事業・小口福祉資金貸付事業

（1）生活福祉資金貸付事業

厳しい経済、雇用情勢のなかで失業者、低所得者の増加が見込まれ、生活福祉資金はこれらの方々に対するセーフティーネット施策のひとつの制度であり、引き続き民生委員児童委員と協力して自立の援助、進学の一助に努める。

（ア）新規貸付 …… 0件

（イ）貸付未償還額 …… 12件 7,154,462円

（平成29年3月31日現在）

（2）小口福祉資金貸付事業

低所得者の生活安定を図るため小口資金の貸付を行い援助を行った。資金の貸付及び償還については民生委員児童委員の協力を得て効果的な運用ができた。

本年度末の貸付残件数は3件（200,000円）で昨年の2件（105,000円）に比べ増加している。

今後も民生委員児童委員と協力し、借受希望世帯の実態に応じた貸付を行う。

新規貸付件数 …… 2件 貸付金額 …… 180,000円

15. 日常生活自立支援事業（福祉サービス利用援助事業）

高知県社会福祉協議会から委託されて、高齢者や障害者の方で日常生活を送るうえで十分な判断ができない方が地域で安心して生活できるように、関係機関と連携を図りながら「福祉サービスの利用援助、日常的な金銭管理サービス、書類などの保管サービス」などを必要に応じて支援を行った。

① 専門員 3名（兼務）

② 生活支援員 8名

③ 契約・相談件数

（ア）新規契約状況

認知症高齢者	知的障害者	精神障害者	その他	合 計
1件 (2件)	0件 (0件)	0件 (1件)	0件 (0件)	1件 (3件)

*（ ）内は前年度実績

(イ) 現契約状況（平成29年3月31日現在）

認知症高齢者	知的障害者	精神障害者	その他	合 計
6 件 (5 件)	8 件 (9 件)	2 件 (3 件)	0 件 (0 件)	1 6 件 (1 7 件)

* () 内は前年度実績

(ウ) 相談利用状況

認知症高齢者	知的障害者	精神障害者	その他	合 計
2 1 9 件 (2 8 8 件)	6 3 9 件 (5 8 3 件)	2 1 9 件 (2 2 8 件)	2 3 件 (2 件)	1, 1 0 0 件 (1, 1 0 1 件)

* () 内は前年度実績

1 6 . 中土佐町受託等事業

(1) 寝具類洗濯乾燥、消毒サービス事業

年1回8月に高齢者及び障害者の方の寝具類の洗濯、乾燥及び消毒を行うことにより、清潔で快適な生活ができる支援をした。

利用者 …………… 20名（男性8名・女性12名）

中土佐地区 …… 11名

上ノ加江地区 …… 7名

大野見地区 …… 2名

*前年度実績

利用者 …………… 21名（男性7名・女性14名）

中土佐地区 …… 18名

大野見地区 …… 3名

(2) 上ノ加江老人憩いの家管理受託事業

地域のつどいの場所のひとつとして、高齢者の趣味の活動や元気塾、いきいき百歳体操、老人クラブ等の様々な団体が昼夜問わず活用することができた。

(3) 日常生活援助サービス事業

家事等が困難な高齢者に対して、須崎市・中土佐町シルバー人材センターの登録ヘルパーの派遣（週2回まで）を行い在宅生活を支援した。

本年度実績	4名（男性2名、女性2名）	中土佐地区 4名
前年度実績	8名（男性3名、女性5名）	中土佐地区 8名

(4) 要援護高齢者等入浴サービス受託事業

デイサービス営業終了後、須崎市・中土佐町シルバー人材センターへ委託して、家庭にお風呂のない要援護高齢者等を対象に入浴サービスを提供した。

入浴料金…300円

営 業 日…月曜から土曜日（月、水、金は女性、火、木、土は男性）

年間利用者…542人（643人）

年間稼働日…310日（311日）

1日当たり平均…1.7人（2.1人）

実利用者…男性11人・女性5人（男性10人・女性8人）

* () 内は前年度実績

(5) 中土佐町敬老会開催事業（補助金事業）

中土佐町3地区（大野見地区、久礼地区、笹場・上ノ加江・矢井賀地区）で、各地

区それぞれ地域性を活かして開催された敬老会へ助成した。

助成金 …………… 300,000円

① 大野見地区（南地区、中央地区、北地区に分かれて実施）

(ア)南地区 …………… 10,000円	
老人クラブ	大野見南
日 時	平成28年9月17日(土)
対象者	南地区に住んでいる80歳以上の方
内 容	憩いの家が改築のため、一堂に会してお祝いをする場所がないため、80歳以上20名の方に敬老饅頭を配布して敬老を祝った。

(イ)中央地区 …………… 50,000円	
老人クラブ	槇野々、伊喜奈、丸ノ内長寿会、久万秋、神母野
日 時	平成28年10月29日(土)
会 場	大野見青年の家体育館
対象者	大野見中央地区に住んでいる80歳以上の方 〔長野、三つ又、槇野々、伊勢川、奈路、喜田、吉野、橋谷〕 〔久万秋、荒瀬〕
内 容	実行委員会が「大野見中央地区敬老お楽しみ会(歌や踊り、ゲームなど)」を開催して敬老を祝った。対象者52名の参加があり、参加できなかった方には、赤飯を配り敬老を祝った。

(ウ)北地区 …………… 40,000円	
老人クラブ	神母野、萩中、下ル川、大股・寺野
日 時	平成28年9月11日(日)
会 場	旧大野見北小学校ホール
対象者	大野見北地区に住んでいる70歳以上の方
内 容	「第6回あったか敬老会」を北地区振興会と北地区老人クラブの共催で開催して敬老を祝った。70歳以上対象者73名の参加があった。

② 久礼地区

久礼地区 …………… 100,000円	
老人クラブ	長沢、鎌田・上和田、双名島、福寿
日 時	平成28年12月4日(日)
会 場	中土佐町民交流会館多目的ホール
対象者	中土佐町に住んでいる65歳以上の方
内 容	実行委員会が中土佐町文化協会が主催する「中土佐町文化発表会」へ協賛し、中土佐町内の65歳以上の来場者・出演者94名の方に中土佐町地域活動支援センター「つどい処」の利用者が作成した敬老のお祝いメッセージと一緒に紅白饅頭を配布して敬老を祝った。

③ 笹場・上ノ加江・矢井賀地区

笹場・上ノ加江・矢井賀地区 …………… 100,000円	
老人クラブ	上ノ加江桜会、小矢井賀長寿会
日 時	平成28年9月26日(月)
会 場	上ノ加江農業構造改善センター
対象者	笹場、上ノ加江、矢井賀地区に住んでいる65歳以上の方
内 容	実行委員会が「第7回笹場・上ノ加江・矢井賀地区敬老会(歌や

踊りなど)」を開催して敬老を祝った。高齢者89名、長寿者(100歳)2名の参加があった。
--

(6) あったかふれあいセンター事業（＊再掲）

①「ほのぼの大野見」 ②「まんまる」 ③「寄り家」

あったかふれあいセンターにおいて提供するサービスの相談機能、生活支援機能を実施して、住み慣れた地域で住民誰もがいきいきと安心して暮らし、ともに支え合える地域の集いの場としての取り組みを行った。

※必須機能 …… つどう・訪問・相談・つなぎ・生活支援

※付加機能 …… 送迎・預かる・交わる・学ぶ

(7) 中土佐町認知症施策総合推進事業

認知症になっても住み慣れた地域で生活を継続するためには、認知症の人やその家族等への効果的な支援を行うことが重要であることから、介護サービスや地域の支援機関等をつなぐ認知症地域支援推進員を配置して、認知症に対する理解を広げる講演会等の開催や認知症の人や家族を支える事業を行った。

地域支援推進員 ……職員 1 名（兼務）

① 認知症家族のつどい（久礼） ……毎月 1 回開催

② 認知症家族のつどい「やすらぎの会」（大野見） ……毎月 1 回開催

③ 認知症講演会「なぜなに認知症」（中土佐町民交流会 平成28年7月24日開催）

講師：「菜の花診療所」理事長 北村ゆり

…参加者 59 名

④ 認知症サポーター養成講座 ……183 名

開催回数：民生委員児童委員定例会 3 回、中土佐町役場 2 回、

上ノ加江地区 1 回、大野見地区 1 回、小学校 1 回、中学校 4 回

⑤ 安心ネットワークの構築

認知症高齢者が増えるなか、徘徊する高齢者等を早期に発見し、事故等を防ぐために、登録情報を更新し、関係機関への情報提供を行った。

新規	辞退	現登録
1 名	2 名	3 名

⑥ 認知症キャラバンメイト交流会 ……11 名

⑦ 認知症課題共有会

(8) 地域における生活困窮者支援等のための共助の基盤づくり事業

年齢や性別、その置かれている生活環境などに係わらず、身近な地域において、誰もが安心して生活を維持できるよう、地域住民相互の支え合いによる共助の取り組みの活性化を図り、生活困窮者を始め、支援が必要な人と地域とのつながりを適切に確保するとともに、これらを地域全体で支える基盤を構築することを通じて、地域福祉の推進を図ることを目的とする事業を行った。

(ア) 地域の福祉ニーズを踏まえた地域サービスの創出・推進を図るために必要となる事業

(1) 中土佐町内の 21 の事業所に中間的就労の場や就労の受け入れニーズについてヒアリングを実施した。

(2) 中土佐町住民が相談・支援先として活用できる機関 10 件の資源集を作成し、中土佐町社協内で共有した。

(イ) 地域の福祉ニーズを踏まえた地域サービスの創出・維持を図るために必要となる事業

(1) 教育委員会との共有会を 5 回開催した。前年度に実施した未就労者調査の結果をもとに現状・課題を共有し、今後の連携について意見交換を行

った。

(2) 就労支援プロジェクト『中土佐はたらくチャレンジプロジェクト』の立ち上げ

- ・高知県社会福祉協議会、中土佐町教育委員会、中土佐町社祉指定居宅介護支援事業所、あったかふれあいセンターの計21名が参加し、日本福祉大学小木曾早苗氏による就労学習会を開催した。
- ・延べ7名が中土佐町内の事業所での見学・体験に参加し、内1名は体験を実施した事業所に就職した。

(3) 各地域別に、あったかふれあいセンター・障害者相談支援事業・自立相談支援事業の担当者とともに個別支援検討会を年2回開催した。

(ウ) その他地域福祉の推進を図るために必要となる事業

中土佐町社協は法人後見に向けた体制整備として定款等の整備を行った。また、法人後見人等として必要な知識・技術等を習得させるため、職員1名が「成年後見人養成研修会」に参加した。

(9) 中土佐町養育支援訪問事業

養育支援が特に必要であると中土佐町長が判断した家庭を家庭訪問支援員が訪問し、家庭内での養育環境を整えるため育児、家事等の支援を行った。

業務の内容

- ① 基本的な生活習慣にかかる援助
- ② 近隣住民等との対人関係づくりへの援助

対象家庭：3家族

- ① 週1回1時間程度の基本的な生活習慣に係わる援助
- ② 養育者の身体的・精神的不調状態に対する援助（調理補助、買い出し等）
- ③ 家事支援（家庭訪問）

(10) 地域自殺対策強化事業（中土佐町つなぐつながる訪問事業）

自殺は、本人にとってこのうえない悲劇であるだけでなく、家族や周りの人々に大きな悲しみと生活上の困難をもたらし、社会全体にとっても大きな損失である。また、追い込まれた人に対する社会のセーフティーネット機能を強化し、自殺者及び自殺企画者さらにうつ病患者を減少させることは、住民の生活の安心に寄与するとともに、そういった人が就労を継続できることで生産性の改善につながり、経済の成長力の底上げに寄与するため、自殺対策基本法に基づく地域自殺対策強化事業実施要綱により、中土佐町における自殺対策の強化を図ることを目的とする事業を行った。

業務の内容

① 対面相談事業

中土佐町内在住の若年層(40歳未満を対象、保護者含む)で、障害者手帳を所持している者、自立支援医療（精神通院）を利用している者、特別児童扶養手当の対象者、又は未就労の疑いがある者を対象に、訪問等による対面相談を実施して計46名から日頃抱えている悩みや困りごと（生活面・将来への不安等）を聞き取り、必要に応じて専門機関につなげた。また、今後の事業の検討材料として障害者自立支援協議会と面談結果の共有を行った

② 人材養成事業

- (ア) LGBT研修会（5月）…県内のNPO団体の代表と理事を招き、計97名の
中土佐町内小中学校の教職員や中土佐町職員等を対象とし、LGBTに関する基礎知識や当事者が抱え

る生きづらさ等を学んだ。

(イ)セクシャル・マイノリティ研修会（１月）…中土佐町内で相談支援に従事する１３名に対し、基礎知識についての講義と事例検討を実施した。また研修会後には、今後の取り組み検討を行った。

(ウ)いのちの授業（３月）…中学校の教職員・生徒・保護者を対象に心の健康やメンタルヘルスやストレス対処法について学んだ。

(エ)依存症啓発研修会（３月）…地域住民・民生委員児童委員・中土佐町職員・当事者家族等計３６名を対象に、アルコール依存症当事者２名による体験談と医療相談員より依存症について、事例を通して当事者への対応をグループワークで検討し、当事者や家族の思いや係わり方について理解を深めた。

＊用語解説：「LGBT」・「セクシャル・マイノリティ」

Lesbian(レズビアン) Gay(ゲイ) Bisexual(バイセクシュアル) Transgender(トランスジェンダー) 同性を好きになったり（性的指向）、「生まれた時の性別とは違う性別かも」と思ったりする（性別違和感を持つ）人や、人と違う性に関する気持ちを持っている人のこと。性的少数者、またはセクシャル・マイノリティとも呼ばれています。

１７．介護保険関連サービス事業

（１）指定居宅介護支援事業所

介護が必要になってもその人らしい人生を実現できるサービスを提供するために介護保険制度の動向や圏域の福祉情勢を把握し、地域包括支援センターとの連携を密にし情報収集等に努め、また、中土佐町外の居宅介護支援事業所等にも随時連絡をし、介護保険情報及び福祉情勢等の情報を収集し事業の円滑化を図った。

今後も、高齢者化社会の進行によるニーズの多様化に対応できる事業の活用、在宅でその人らしい生活を支えるため、介護支援サービスの専門性の強化や地域の福祉サービス資源を活用できるよう介護支援専門員の資質向上に努める。

区 分	本年度実績	前年度実績	増 減
居宅サービス計画作成件数	１，１０２件	１，０５８件	４４件
新規ケアプラン利用者件数	２４件	３５件	△１１件

区 分	本年度実績	前年度実績	増 減
介護保険収入等	16,202,280円	12,093,340円	4,108,940円

＊雑収入(4,000円)及び経理区分間繰入金収入(711,000円)を除く

（２）指定訪問介護事業所

訪問回数は6,500回で前年度と比較して911回の減少、１回の訪問単位は前年度2,778円に対して本年度は2,904円でプラス126円（＋4.5%）、利用者１人当たり１ヶ月の訪問回数は前年度618回、本年度は541回となっている。

収入減の大きな要因は、利用者が入院等や死亡となったこともあるが、独居状態からの在宅生活に限界があり施設への入所する傾向が続いている。

今後は、多様化する利用者のニーズに対応して行けるようにヘルパー全体の資質向上を図る取り組みをしていくとともに、訪問介護事業の情報の把握に努め、新規利用者の獲得に向けた取り組みに努める。

区 分	本年度実績	前年度実績	増 減
訪問回数	6, 5 0 0回	7, 4 1 1回	△ 9 1 1回
介護保険収入等	18,877,953円	20,590,237円	△1,712,284円

(3) 通所介護事業所

利用者数の見込21人/日に対して利用実績は25.1人/日と目標は達成しており、前年度の利用実績22.1人/日よりプラス3人/日の増員になり、それに伴い収入も増加している。利用者の増員要因の主なものとしては、例年になく前期に利用者が特に増加しており、また、10月から土曜日営業を開始したことも大きく寄与している。利用者の状況としては、介護度が重度化することにより在宅での生活が厳しい現状となっており、医療機関や施設への入院・入所が多くなってきているので、今後も高齢化社会に向けた地域福祉のニーズの把握に努め職員の資質向上・サービス品質の向上とともに個別性の高い良質な介護サービスを提供し、地域住民とのふれあいを大切に、地域に開かれた事業展開をして行く。

また、予想される南海トラフ地震等や大規模災害に関しても研修会等に参加し、職員間で災害対応マニュアルに基づいた避難訓練を実施して行く。

区 分	利用者数	介護保険収入	1日当たり／人	営業日数
本年度実績	7,116人	60,020,340円	25.1	283日
前年度実績	5,766人	50,076,223円	22.1	260日
増 減	1,350人	9,944,117円	3.0	23日

*雑収入(423,2566円)を除く

月別利用状況（延べ人員）

（単位：人）

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月
本年度実績	5 4 6	6 0 2	5 9 2	5 4 7	6 1 1	5 8 3
前年度実績	4 8 3	4 6 6	4 8 2	4 9 4	4 3 6	4 7 6
稼動日数(日)	2 1	2 2	2 2	2 1	2 3	2 1

区 分	10月	11月	12月	1月	2月	3月
本年度実績	6 5 6	6 1 4	6 4 1	5 7 4	5 4 9	6 0 1
前年度実績	4 9 1	4 5 6	5 0 2	4 7 7	4 8 2	5 2 1
稼動日数(日)	2 6	2 6	2 6	2 4	2 4	2 7

(4) 訪問入浴介護事業所

本年度は、軽度から重度の利用者ニーズに応じた身体介護やコミュニケーションスキルの向上を図り、よりよい支援が提供できる改善を行った結果もあり、前年度と比較して延べ利用者数が20.3%増となった。

新規利用者は2名、亡くなった方は3名で、現在の利用者は久礼地区3名、大野見地区1名で、4名の内男性2名、女性2名、100歳以上の方が3名となっている。

区 分	見込み利用者数	利用者数
本年度	1 9 2人 (16.0人/月)	2 4 8人 (20.7人/月)
前年度	1 5 6人 (13人/月)	2 0 6人 (17.2人/月)

区 分	利用者数	介護保険収入等	営業日数
本年度実績	2 4 8人	3,283,600円	1 5 6日
前年度実績	2 0 6人	2,791,040円	1 4 6日
増 減	4 2人	492,560円	1 0日

月別利用状況（延べ人員）

（単位：人）

区 分	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
本年度実績	2 1	2 4	1 7	1 7	2 8	2 4
前年度実績	1 2	1 3	1 7	1 8	1 6	1 9
稼動日数(日)	1 3	1 3	1 3	1 3	1 4	1 3

区 分	1 0 月	1 1 月	1 2 月	1 月	2 月	3 月
本年度実績	1 6	1 9	1 6	1 7	2 3	2 6
前年度実績	1 7	1 6	1 8	1 6	2 1	2 3
稼動日数(日)	1 2	1 4	1 3	1 2	1 2	1 4

18. 障害者総合支援法関連事業

（1）中土佐町地域活動支援センターつどい処（I 型）…………… 中土佐町受託事業

創作的活動又は生産活動の機会の提供をするとともに、社会との交流を促進させることによって、地域における障害者等の自立の促進と社会参加を図ることを目的とする事業を行った。

① 基礎的事業

- ・集える場の提供
- ・創作的活動支援・生産活動
- ・スポーツ・レクリエーション活動支援
- ・他地域の当事者との交流活動
- ・地域住民・ボランティアとの交流事業等
- ・ボランティアの育成・活動の場の提供（ボランティアセンターとの連携）
- ・地域で障害のある方が好きなことや得意なことを活かし活躍できる機会の提供

② I 型事業

- ・金銭管理支援サービス
- ・個別支援
- ・高次脳機能障害の本人・家族のミーティング事業の運営への支援などセルフヘルプ活動に関する支援
- ・障害保健福祉についての啓発活動等

③ 相談支援事業

- 方 法 …………… 面接・訪問・電話など
- 内 容 …………… 生活全般に関する相談
福祉サービスを利用するための情報提供
権利擁護のために必要な援助
セルフヘルプ活動に関する支援
その他情報提供に関する支援

④ その他の事業内容

- ・障害児長期休暇支援事業
- ・避難訓練・災害学習等

利用者数（延べ人員）

（単位：人）

区 分	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
本年度実績	3 7 0	3 9 4	4 2 7	4 4 8	4 6 8	3 5 6
前年度実績	4 4 6	4 2 2	4 5 0	4 3 5	4 4 2	3 5 9

区 分	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
本年度実績	400	354	352	358	343	361	4,631
前年度実績	428	349	439	413	435	453	5,071

(2) 中土佐町相談支援事業所 …… 中土佐町受託事業

障害（児）者並びに難病対象者、また、その家族からの相談に応じ、必要な情報の提供及び助言、その他の障害福祉サービス利用支援等の必要な支援を行うとともに、障害者等の権利擁護のために必要な支援を行うことにより、障害者等が地域で自立した日常生活又は社会生活を営むことができるようにすることを目的とする事業を行った。

- ① 日常生活全般にわたる相談
- ② 福祉サービスの利用援助
- ③ 社会資源を活用するための援助
- ④ 社会生活力を高めるための援助
- ⑤ ピアカウンセリング
- ⑥ 権利擁護のために必要な援助
- ⑦ 専門機関の紹介
- ⑧ アセスメント（支援するうえで解決すべき課題の把握）の実施
- ⑨ サービス利用計画原案の作成
- ⑩ サービス担当者会議の開催
- ⑪ モニタリング（サービス利用計画の実施状況の把握）の実施
- ⑫ 地域移行・定着支援
- ⑬ その他必要な相談支援については、中土佐町と協議のうえ実施

利用者数（延べ人員）

（単位：人）

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月
本年度実績	158	166	172	179	163	154
前年度実績	181	173	197	175	204	141

区 分	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
本年度実績	167	156	161	179	141	190	1,986
前年度実績	186	147	223	191	157	172	2,147

(3) 指定就労継続支援B型事業所「鰐乃國の萬屋」

障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するために、利用者の意思及び人格を尊重し、利用者の立場に立った適切かつ円滑なる指定就労継続支援（B型）提供を確保することを目的とする事業を行った。

① 勤める場としての事業所

事業所を就労の場並びに社会的役割を担う場としての取り組みを実施し、必要に応じて関係機関と連携しながら、一般就労に向けた支援を行った。

(ア) リサイクル事業

ストックヤード施設において「火・水・木・金」曜日の週4日、資源物の搬入日程に合わせて『缶・ビン・古紙・古布・発泡トレイ・ペットボトル等』のリサイクル作業を行い、資源ごみの分別や、中間処理、保管などの作業を通じて中土佐町の環境づくりの役割を担う

(イ) 店舗事業

鰐乃國のめし家「萬や」において「火・水・木・金・土」曜日の週5日、仕込み、接客、清掃、調理、配膳などの作業を行い、地域とつながり、

さまざまな対人コミュニケーションの場を通じて、鯉乃國の町づくりに参加、お弁当販売や出張販売も行う

(ウ) たれづくり事業

「たれ工房」において、必要に応じ店舗使用のたれの製造を行い、また、注文に応じてたれ3種（井たれ・ちり酢・ドレッシング）のビン煮沸、ビン詰め、たれ仕込み、ラベル貼りなどの作業を行い、手作りの商品として製造、販売を行う

(エ) 「よろずai」製造販売事業

生活環境クリーナー「よろずai」の製造、ボトル詰め及びラベルづくり等の軽作業他を行い、環境保全の役割を担える場として、海や川がきれいになる町づくりに参加する

(オ) 自動販売機清掃

地域において屋内・屋外設置の自動販売機の清掃作業を行う

(カ) その他事業

利用者数の増減、個々の高齢化に伴い変化・増加するニーズに応えるため、新たな作業を模索・検討・試行し本格実施を目指す。

② 集まる場所・交わる場所としての事業所

各事業において、ミーティング・部署会及び月1回の事業所全体の所内会を実施、利用者相互が意見を出し合い、理解し合い、事業所全体として話し合える場を大切にしたい。また、交流を深め、社会見学・体験のための日帰り研修旅行・季節行事などを実施した。ともに生きる町づくりに向けて、事業所を人と人との交わる場、お互いがお互いを認め合う場として位置付け、下記の取り組みを行った。

(ア) 小学生との交流

小学生との交流を通じて障害、環境についての理解を深める

(イ) 環境学習の受け入れ

リサイクル作業の見学、実習の受け入れを行う

(ウ) 店舗における交流

接客を通じて地域の方々と交流を行う

(エ) その他の交流

事業所・医療機関・ボランティアなど地域との交流を行う

利用(契約)者状況（定員：25名）

（単位：人）

区 分	契約者	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代
本年度末	22	0	6	4	4	1	5	2
前年度末	19	0	4	3	4	1	5	2

店舗利用状況等

区 分	来店客数(人)	売上収入(円)	外販収入(円)	収入合計(円)
本年度	5,496	4,990,162	1,508,923	6,499,085
前年度	5,554	4,994,589	1,263,067	6,257,656
増 減	△58	△4,427	245,856	241,429